

令和 6 年度第 6 回茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

議題	(1) 令和 7 年度実施市民活動推進補助事業公開プレゼンテーション（審議事項）
日時	令和 7 年 3 月 1 6 日（日） 1 3 時 0 0 分から 1 6 時 0 5 分
場所	市役所本庁舎 4 階 会議室 2 ～ 5
出席者氏名 欠席者	山口敦史 藤間英里 市川歩 菅野敦 船山福憲 高山和茂 若林英俊 坂田美保子 山田修嗣 事務局 4 名 市民自治推進課 三浦課長、小松課長補佐、熊澤主査、柿澤副主査 山來京生
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者数	3 1 名（内 Zoom 1 1 名）

○事務局

皆さま、こんにちは。本日は、お忙しい中お越しいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまより、「令和7年度実施市民活動推進補助事業公開プレゼンテーション」を開会いたします。

本日の司会進行を務めます市民自治推進課の小松と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、山田委員長より御挨拶申し上げます。

○山田委員長

皆さんこんにちは。

山田と申します。

市民活動推進委員会を代表しまして、一言挨拶を申し上げたいと思います。

本日、皆さまに御提案いただきますこの制度は、愛称を市民活動げんき基金補助事業といいます。通常私たちもげんき基金と呼んでいますが、正式な名前は市民活動推進基金補助事業です。茅ヶ崎市が市民活動を推進するために、その環境を整備して、市民活動の活性化を図ることにより、活力溢れる地域社会の実現を目指すという目標で、平成17年から実施をしている事業です。

すでに190を超える事業に対して財政的なサポートを達成していきまして、自治体と市民とのかけ橋になったり、協働事業や委託事業に発展をしたりというものもたくさんある、仕組みとして非常に素晴らしいものです。

内容として今日私たちが伺いたいのが、実際にどのように活用くださるのかということです。仕組みというのはそこに心を入れていく、実際に活動してくださる方々の思いや、目指すターゲットが大切ですので、今日はそのような思いやターゲットを伺い、それが茅ヶ崎市の地域社会にどのように、利点として繋がっていくのかをともに、審査して参りたいと思います。

この点では様々な角度の、様々な活動が御提案いただいているということで、大変嬉しいことでもありますし、事前に皆さんにはプレゼンテーション資料、それから企画書類などを作成いただいたことにつきましても、感謝を申し上げたいと思います。

それらを私たち委員は拝見いたしまして、質問項目などを検討させていただきつつ、皆さんの事前回答を経て、今日のプレゼンテーションを迎えるという段取りとなっています。

今日も企画内容について、さらに質問やコメントなど、お話をさせていただきたいと思います。

堅苦しい場にならないように私たちも気をつけたいと思いますが、皆さんもどう

ぞ御自身の団体の活動が、よりよい内容になりますように、今日のこの機会を使っ
ていただきたいと思います。あわせて、横の繋がり、同じように市民活動をなさっ
ている方がどんな思いでどんなことを御提案されるのかというところも、お互いに
学びながら良いプレゼンテーションの機会となればと感じております。

では、この後一緒に審査をさせていただきます委員を紹介いたします。

名前を申し上げますので、その場で会釈をしていただければと思います。

まず隣に副委員長の坂田委員がいらっしゃいます。

山口委員です。

藤間委員です。

市川委員です。

菅野委員です。

山来委員はまだいらっしゃっておりませんが、この後参加の見込みということで
す。

船山委員です。

高山委員です。

若林委員です。

山来委員が揃えば10名で、いらっしゃらなければ9名で今日はお話を伺いたい
と思っております。

皆さんどうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局

ありがとうございます。

では佐藤市長より御挨拶申し上げます。

○佐藤市長

皆さんこんにちは。

御紹介いただきました茅ヶ崎市長の佐藤光でございます。

寒い中お越しいただきまして、誠にありがとうございます。

皆さんのプレゼンの内容を事前に拝見させていただきました。

ワクワクするような内容であったり、本当に生活に密着するような内容であつた
り、切実な内容であったり、本当に素晴らしい内容ばかりだなと思っております。

このプレゼンテーション以上にもっともっと僕はこれが膨らんでいくのではない
かという思いもあります。

例えば1 L e b e nさん、実は道の駅に今度ドッグランができます。何かコラボ
できたら面白いのではと思いました。

茅ヶ崎CAD部さんは、萩園にできた3Dプリンターで車を作る自動運転の工場

とのコラボなど。皆さんのやっている一つ一つの事業が、茅ヶ崎市内でコラボできるのではないかと。そんな思いで拝見させていただきました。

ぜひ楽しいプレゼンテーションにしてください。

よろしくお願いします。

○事務局

ありがとうございました。

まことに恐縮ではございますが、佐藤市長は次の公務のため、これを持ちまして退席とさせていただきます。

では、説明を進めさせていただきます。

本プレゼンテーションでは、Z o o mのウェビナー機能を使用して映像配信をしておりますので御承知おきください。

それでは、本日のプレゼンテーションの流れについて、簡単に御説明申し上げます。お配りしております冊子の1ページを御覧ください。

本日、これから16時ごろまでのお時間で、令和7年度に実施する市民活動推進補助事業として提案のあった6事業について、プレゼンテーションを実施いたします。

まず、時間配分について御説明します。補助区分がスタート支援の団体は7分以内で、ステップアップ支援の団体は10分以内で事業についての説明をしていただきます。時間管理について申し上げますと、まず、終了1分前に、1度ベルを鳴らします。

予定時間を経過したところで、2度ベルを鳴らします。

説明が終わりましたら、市民活動推進委員会委員からの質問やアドバイスなどを行います。こちらは補助区分がスタート支援の団体は8分、ステップアップ支援の団体は10分を予定しています。

説明中に2度ベルがなりましたら、途中であっても速やかに説明を終了してください。思いの込もった事業を短い時間でアピールすることは大変なこととは思いますが、円滑な進行に御協力いただきますようお願いいたします。

また、質疑応答の途中でベルが鳴りましたら、その質疑を最後の質疑とさせていただきます。質問される委員及び回答なさる団体の皆さまには、1問ずつ、できるだけ簡潔なやりとりをお願いしたいと思います。

皆さまの事業の評価は、市民活動推進委員会が、企画書と本日の発表・質疑応答の内容により行って参ります。

評価項目と採否の基準は、冊子の2ページ及び3ページのとおりです。満点の60%を採択相当と判断する目安とし、予算額の枠内で、順位に応じて、採否を検討します。

令和7年度実施事業は、市民活動推進委員会による評価結果を受けて、最終的に市長が決定します。採択・不採択等の結果につきましては、事業提案団体の皆さまに書面で御連絡するほか、市ホームページ等でも一般に公表して参ります。

なお、本日のプレゼンテーションの様子は、写真を撮影し、市ホームページや広報紙等に活用させていただく場合がございます。予め御了承いただきますよう、お願いいたします。

最後になりますが、この補助金は、市民活動推進基金、愛称市民活動げんき基金を原資とする補助金です。市民活動げんき基金は、市民の皆さまからの御寄附で成り立っております。冊子6ページ及び7ページに、御寄附いただいた方々を記載しています。

皆さまからの御寄附がなければ、この補助金はいずれなくなってしまうです。会場内には、市民活動げんき基金の募金箱を用意しております。御来場の皆さまにおかれましては、制度の趣旨を御理解いただき、御協力いただければ幸いです。

それでは、ただいまより、各事業のプレゼンテーションを開始いたします。では、1番目茅ヶ崎CAD部さん準備をお願いいたします。

それでは、よろしくお願いいたします。

○茅ヶ崎CAD部

(茅ヶ崎CAD部発表)

○事務局

ありがとうございます。

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

では、委員からの質問、コメントをお伝えしたいと思います。

まず質問のある方はいらっしゃいますか。

○坂田副委員長

坂田と申します。

こんな素敵なもの（各委員のネームタグ）を作っていただきありがとうございます。

ホームページも拝見させていただいて、先ほどのペットボトルのオープナーなど

を作られていることを拝見して、今日も見せていただきましたけれども、福祉の部分について、今後広がりがあるのではないかと期待をしているところです。今回の企画については、デジタルと福祉がきっかけで立ち上がったと伺いましたが、今後の展望を見ると、福祉という言葉が見当たりませんでした。

福祉の分野への期待を考えると福祉機器、自助具などは、これからとても需要があるのではないかと考えているのですが、そこへの取り組みを、今後どう考えているのか伺ってもよろしいでしょうか。

○茅ヶ崎CAD部

まず、3Dプリンターは、できる限り楽しい分野というか、先ほど紹介したような夢のある世界という部分をまず前面に押し、実際に体験する方々には福祉だとかという部分を紹介していこうと考えております。

私自身がICTリハビリテーション研究会というところに所属しておりまして、別の活動ではそちらの方の普及に取り組んでいます。

ですので、実は少し私自身のすみ分けをしている部分もあって、もう一つの方は自助具などを3Dプリンターで日本全国、世界各国に向けて発表しております。

茅ヶ崎CAD部に関しては、もっとハードルを低くして、ある意味窓口にして、来ていただいた方に自助具などを紹介できたらいいかなと考えております。

○坂田副委員長

ありがとうございました。

今後どういう方向に向かっていくのかも、重要な観点ではないかなと思ひまして伺いました。

ありがとうございます。

○茅ヶ崎CAD部

少し補足で言うと、隣の会員も3Dプリンターで自助具を作っているらしいです。

あと、今日来てくれた彼も車椅子に乗っているということで、あまりここで福祉福祉となると、少し僕の中では違和感があって、彼らは別に福祉代表で来ているわけではなく、やはり夢のあることをやろうとしている方々なので、今回はやはり彼らがその場にいたときに、何かもっと楽しいもの、夢のあるものを作っているのだというところを、今回はアピールさせていただきました。

○山田委員長

ありがとうございます。

続いていかがでしょうか。

○高山委員

高山といいます。

実は私も技術系と言うような仕事、設計者をやっていたので、気になるところが、こういうことに興味を持つ方が必ずしも適性があるか、数学の問題を解くというわけではないですが、ある意味その体の中に技術だとか様々なことを染み込ませていくには、興味と、それから適性というものがどうしても必要な分野かなと考えて、これは私の考えだけかもしれないのですが、適性判断が何かないと、結局一生懸命やっても、自分が考えた目標に到達できない、その経験が無駄になるとは思いませんけれども、どこかで挫折してしまうというようなことが起きると、せっかく取り組んだのにとと思われると思うのですね。

だから、この事業のターゲットと、それからその人の適性をどのように判断してこの事業を進めていくのか、特に人づくりというものについてはどのようにお考えでしょうか。

○茅ヶ崎CAD部

ありがとうございます。

私も実は挫折した人間です。

挫折を繰り返してなかなか取得ができなかったのです。

本当に私、今50代ですけど、20代から30年間挫折してきました。

十数年くらい前になって新しいCADソフトが出て、すごくさわりやすくなって、それ以外にも様々CADソフトを探してみると、無料で使えるソフトが山ほどあります。

ですので、このソフトでもしょうまいかなかったらまた違うソフト、また違うソフトと紹介していければ、まず挫折する方々の救いはあるかと。

もう一つは、もし自分自身でモデリングできなくても、パソコン操作ができなくても、世の中にフリーで3Dデータが出回っているので、データをダウンロードしてプリンターで出力するというだけでも、実は結構それでも楽しかったりするの、そういった形で、技術的なところで進めなくても、自分の欲しいものを手に入れることはできるかなと思っています。そういう形で3Dデータとお近づきになっていければいいかなと思っています。

○山田委員長

コメントなどありましたらどうぞお話ください。

はい。

お願いします。

○ 市川委員

質問ではないのですが、日常生活の中であまり触れ合うことがないので、3Dプリンターを体験した市民の方が、自分の生活と少し紐付けたりだとか、そういうことを考えられる機会になるといいなと思います。

事業費のほとんどがこの3Dプリンターということになっているので、長く継続して、たくさんの方たちにそういうきっかけを御提供できるといいなと思うプロジェクトですので、引き続き頑張ってください。

○ 茅ヶ崎CAD部

ありがとうございます。

今日お配りしたネームプレートが彼が一生懸命デザイン、モデリングをして、私が出力するという流れで作成しております。

○ 山田委員長

ありがとうございます。

では続いてあと1人くらい時間がありますが、いかがでしょうか。

○ 山口委員

プレゼンテーションありがとうございました。

このネームプレートを作るのに大体どれくらいの時間がかかりましたか。

モデリングと出力ですね。

○ 茅ヶ崎CAD部

1日か2日くらいでできました。

パソコンを出すという部分においては、やはり御家族の御協力が必要になりますので、そういった時間を含めております。

すぐモデリングするとなると、彼もやはりパソコンを家に出してもらったりとか、操作することは、実は昨日オンラインで一緒にやったのですけれど、操作に関しては僕が指示したら、結構1、2分くらいでパパッとやっていたりはしているので、モデリング自体は早くて5、6分でできます。

慣れてないと当然1時間以上かかってしまうのですけれど、出力時間は、10枚いっぺんに出しましたので、大体それでも1時間少しくらいです。

○山口委員

ありがとうございます。

それを質問したのは、事前質問もさせていただきましたけれども体験する際の時間が少し気になっていて、そのモデリングとその出力の時間が気になっていたものですから、一つだとどれくらい時間がかかるものですか。

○茅ヶ崎CAD部

一つ大体10分ぐらいで見えています。ネームプレートの場合は。

テキストはいらないのかという質問もあったのですが、テキストを見ながらやるよりは、もうどんどん手を動かしてもらって物を作っていただくという流れの方が、最初の1枚を作ってもらい、その10分出力している間にまたもう一つを出力するみたいな形で。体験をしていただければいいかなと思っております。

○山口委員

わかりました。

ありがとうございます。

○山田委員長

では質問は以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

茅ヶ崎CAD部の皆さんありがとうございました。

お席にお戻りください。

ではTAKURAMI不動産の皆さん御準備の方よろしく願いいたします。

よろしいですか。

プレゼンテーションをお願いいたします。

○TAKURAMI不動産

(TAKURAMI不動産発表)

○事務局

ありがとうございます。

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしく願いします。

○山田委員長

では委員からの質問がありましたらお尋ねください。

いかがでしょうか。

はい。

○山口委員

プレゼンテーションありがとうございました。

2点ほどありまして、まず一つは、事業計画書の目的の中に茅ヶ崎らしいという言葉が出てくるのですけれども、どういうところが茅ヶ崎らしいと考えているのか、TAKURAMI不動産の中核になるのかというところをお聞かせいただきたいのが一つ。

あとは、ヒアリングで収集されたデータが溜まっていくと思うのですけれども、こちらは、将来空き家を探している方々のマッチングなどに、データを活用して、うまくマッチングまでつなげていくというところまで考えてらっしゃるのかという2点についてお伺いしたいと思います。

○TAKURAMI不動産

御質問ありがとうございます。

まず茅ヶ崎らしいという点についてなのですが、茅ヶ崎は、小さく何かを始める人が少しずつ増えてきているなと思っていて、空き家の問題は結構空き家の問題がドンとあって、そこを何とかしようみたいなお話が結構全国各地であると思うのですけれども、茅ヶ崎は小さくやっていこうという方が増えてきている印象を持っているので、そういった方々が小さく、自分の家の空きスペースとか、そういうところでやっていくことがまちに広がっていくことで、空き家が問題にならずに、活用文化がまちにたくさん広がって行って、どんどんどんどん様々なことをやり出す人が増えていく。

それを見た人が何か自分たちでもこんなことができるのではないかと、あの場所でこんなことができるのではないかと、みたいなことを考えていくというのが、茅ヶ崎らしい、空き家活用の仕組みなのかなと現時点でとらえています。

今回のヒアリング事業で、所有者さんの視点を組み合わせた上で、さらに茅ヶ崎らしい形とは何だろうというのは、引き続き検討していきたいと思っています。

2点目ですけれども、今回のヒアリング事業においては、物件情報とか、そういった情報を定量的にストックしていくというより、まずどんなことを考えているのかという理解のところを中心にしていきたいと思っております。

もちろん報告会などで、企みのある人と空き家所有者さんとが出会って、そこで

なにか活用の話になっていくみたいなのは、もちろんいい話だなとは思っているのですが、現時点で今年のヒアリング事業のデータをもとに、すぐに人と人をくっつけようみたいなどころまではしていかないつもりで考えています。

○山口委員

ありがとうございます。

○坂田副委員長

プレゼンありがとうございました。

この事業計画書を拝見したときに、すごくいい計画書だなと思いました。

というのは、事業の背景、それから目的、実施する事業が、この1年間の中に具体的な手法を取り入れて書かれており、私自身とても楽しみにしている事業です。

2つほどお伺いしたいのですが、20組ほどの空き家所有者の皆さんにヒアリングとの御説明だったのですが、こちらはすでにターゲットというか、具体的に決まっているのかどうかを教えてくださいたいのと、皆さんのTAKURAMI不動産という団体は、もしかするとまちづくりの中間支援的な存在として活動されているように思いました。

今後の団体の方向性について伺いたいと思います。

○TAKURAMI不動産

ありがとうございます。

まず一つ目の御質問の想定なのですが、僕らもあの中で話していて、20組のうちの9組くらいは、了解はまだ取ってないのですが、この人に聞けたらいいよねというのは決まっています。

理想としては、その9組の方にお話を聞いて、その9組の方が、次ですね、御紹介いただけるみたいな流れで、20組が繋がっていくのが、今想定する中で、いい流れかなと思っています。

次に、この団体の形というのは、法人化するとかということはまだ特に考えてはいないのですが、僕らの中では、利活用の文化をまちに作っていくとか、やりたいことをやってみる実験文化を作っていくという、そういったコミュニティ的な運営みたいな形は必要かなと思っていますし、やりたいことを形にしていく上での、伴走といいますか、何かともにコンセプトを作り、事業計画を作り、どんな運営をしていくのかというのを考えたいのと、そういった機能の部分については考えております。

まだ形は柔軟性を持たせておいていいフェーズかなと僕らでは理解しています。

○坂田副委員長

ありがとうございます。

ヒアリングの方法ですとか、それから、今9組の方々から繋がっていくというのが、とても市民活動らしくていいなと思いますし、このヒアリングの方法も、行政ではやらないと思います。

まさに市民活動ならではと思いますので、期待をしていきたいと思います。

ありがとうございます。

○山田委員長

御質問いかがでしょうか。

○市川委員

プレゼンありがとうございました。

ヒアリングをする方というのは、TAKURAMI不動産のメンバーだけなのか、それとも、例えば自分たちが利活用したいなと思っているような人たちも参加できるもの、オープンなものになるのか、そのあたりを少し聞かせていただければと思います。

○TAKURAMI不動産

ありがとうございます。

今年度のヒアリングにおいては、まず僕ら3人でヒアリングをしていこうと思っています。

やはり、結構個人情報とかも入ってきたりはするので、まずは僕ら3人だけで聞くような形で考えています。

○山田委員長

質疑応答は以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

○事務局

TAKURAMI不動産さんありがとうございました。

席にお戻りください。

では続きまして、C3大作戦さん御準備のほどお願いします。

よろしいですか。

それではC3大作戦さん、よろしくお願いいたします。

○C 3 大作戦

(C 3 大作戦発表)

○事務局

ありがとうございます。

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願いします。

○山田委員長

では委員の皆さんから質問がありましたらお尋ねください。

○山口委員

イベントをやる際には、当日は生ごみは各家庭から持ち込んでいただくのでしょうか。

○C 3 大作戦

皆さんに生ごみ持って来ていただくのは手間かと思うので、主催者側で生ごみを1個だけ持ってきて、それを見てもらってやり方を覚えてもらって、実際、次の日から各家庭で、自分の家庭の生ごみを処理いただこうと考えています。

○山口委員

当日、自分達でやるというより、見て覚えるという形のものになるのですね。

わかりました。

ありがとうございます。

○藤間委員

プレゼンテーションお疲れ様でした。

実は30年ほど前にEMコンポストを作って挫折した人間です。

なぜ挫折したのかというと、マンションに住んでいたのですね。

その時、作ったのはいいのですが、出すところがありませんでした。

畑など探されていて、交渉に入るとおっしゃっていたので、よかったと思ったのですが、これだけで、これ自体で育てられるわけではないじゃないですか。

何人か来れば、それだけの広い用地が必要で、混ぜ込むだけの土も必要でということになるので、どのくらいの用地を準備されていますか。

○Ｃ３大作戦

まずはスモールスタートというか、２０平米とか借りられる小さい範囲からスタートして、まだそんなに組み込まれてる方の人数も少ないので、畑だと広いので、そんなにたくさん入れても比較的薄まるというか、コンポストはたい肥力が高いのですけれど、薄まるので、小さい畑から始めたいと考えています。

○藤間委員

わかりました。

あと、生ごみを入れる段ボールの中にビニールを入れてということですか。

○Ｃ３大作戦

ダンボールの中にはビニールは入れずに、好気性ですので、空気を逆に入れて堆肥化します。

○藤間委員

水分が結構出るのは大丈夫なのですか。

○Ｃ３大作戦

水分は段ボールから少しずつ逃げていくので、どんどん生ごみが小さくなっていきながら水分を逃がして行って堆肥になっていくという原理になります。

○藤間委員

ありがとうございます。

○山田委員長

続いて御質問ありますでしょうか。

お願いします。

○高山委員

質問させていただきます。

基本的にこの事業が、受益者が負担するというような形が、何らかの形で、きちんとしたベースができ上がると、結局、自分たちが何か持ち出すということではなくて、事業がずっと継続できるようなプランになっていくのかなと聞いていて感じたのですよね。

そうすると、生ごみ処理をたくさん処理するためには、たくさんの設備費がかかるわけですから行政はたくさん税金を使わざるを得ない。

今、生ごみは有料の袋で回収していて、それが十分ペイできるだけの事業になってなくて、残念ながらその他の人たちを含んだ税金が投入されていると思うのですよ。

そうすると、この事業を上手にずっと継続性のあるものにしようとする、ごみを出す側というより、むしろごみがいかに有効に利用されて、そこに対してのペイがちゃんとできる。

そして、市が、税金を投与している部分も、うまいことバランスが取れて最終的にごみの処理の量も減って、みんながWIN-WINになるような関係というのは、お金のところになってしまうのですけれど、そういった数字のプランが今他のところでの事業の金額だとかというのを参考には聞かせていただいたのですが、実際この事業を茅ヶ崎市に当てはめたときにどういうプランができるだろうというのは何かお考えのところがありましたら、ぜひ。市はたくさん税金を投入しているところが減ればそれはWIN-WINの関係になるのしょうから、ぜひお聞かせいただけたらと思います。

○C3大作戦

いろいろな可能性のことをおっしゃっていただいてありがとうございます。

身近にできるところから、各家庭で取り組んでみて、結果的に少しでも生ごみが減ればいいなというところの観点から始めたいと考えているので、なかなか市としておっきくというより、一緒に取り組んで減らすというよりも、意識のある方が、お金も多少なりともかかりますので、そういった人が取り組まれて、少しずつ広がりを見せて、結果的に少しでも生ごみが減ればという事業だと考えております。

○高山委員

今、私のような質問は、行政側への宿題となりそうですね。

○山田委員長

ありがとうございました。

続いて質問のある方いかがでしょうか。

○坂田副委員長

プレゼンありがとうございました。

少し具体的なことなのですが、事業計画の中に年6回ワークショップ、場所が香川自治会館、コミュニティホール会議室、青少年会館と具体的に示されているのですが、参加者はどのような方を想定していらっしゃるのか、またその方々に向けてどうお声がけをして、お誘いをしようかと思っているのかを伺ってもよろし

いでしょうか。

○C3大作戦

参加者の想定ですが、いろいろな方が来られるかなと思っていて、一度行った時は子育て世代もいらっしゃいましたし、年配の方もいらっしゃったので、いろいろな世代の方が来られるものだと思います。

ただ実際取り組むと、毎日混ぜないといけないので、大変だということがあるので、本当は子育て世代のお母さんではなくてお父さんとか、子育てが終わった後の人に取り組んで欲しいなという思いはあります。

ただ、意識のある方は、だれでも来て欲しいと思っています。

取り組むときはチラシで、今回コミュニティセンターに送って、3世帯、冬の寒い中に来ていただいたので、同じようにチラシを、あとSNSでアピールして来ていただきたいと考えております。

○山田委員長

ではちょうど時間となったようですので、質疑応答は以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

ではC3大作戦さんお席にお戻りください。

こちらでスタート支援の3団体のプレゼンテーションが終了しましたので、10分間の休憩とさせていただきますと思います。

会場内のあちらの時計で2時15分から再開させていただきます。

(休憩)

○事務局

それでは再開いたします。続きましてこどもマルシェ実行委員会さん準備をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

<市川委員退室>

それではお願いします。

○こどもマルシェ実行委員会

(こどもマルシェ実行委員会発表)

○事務局

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくをお願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問がありましたらお尋ねください。

お願いします。

○藤間委員

プレゼンテーションお疲れ様でした。

このこどもマルシェさんの話し合いはうみかぜテラスを普段使われていますよね。

その中で、振り返りワークショップだけ別の場所なのですよ。

そこだけが少し高額なのですね。これはどういうワークショップをされるのですか。

○こどもマルシェ実行委員会

振り返りまでの間は主にうみかぜテラスを使用していて今年もうみかぜテラスではあったのですが、最後の振り返り会に関しましては、できたら、少し打ち上げ的な要素も含まれていけばいいかなと思ひまして、飲食ができる場所であたり、子どもと大人がさらに、最後にぐっと深くつながれるように、またそういうことができるような場所で、今回Cの辺りと書かせていただいたのですが、それが海の前で開放的な空間の中、子どもたちと大人が、海にあるお店ということで、そういう3点が繋がればもっと素敵になるではないかなと思ひて最後は特別感というところでそのようにさせていただきました。

○藤間委員

これは場所代ですか、飲食代になるのですか。

場所代で1万円かかるということになるのですよね。

○こどもマルシェ実行委員会

はい。

○藤間委員

わかりました。

ありがとうございました。

○こどもマルシェ実行委員会

内容的には、少し振り返りをしっかり行いまして子どもたちと最後は交流会、今後も繋がっていくよね、いきたいよねという願いを込めて交流会、懇親会という内容も含まれております。

○藤間委員

はいありがとうございます。

あと、ボランティア謝礼についてですが、今、大阪の万博でもボランティアはお金を払わないと来ないというのは聞いているのですが、個人的にはボランティアに謝金をお支払いすることに違和感がありまして、やはりそういうふうにはしないと今は来てくれないのでしょうか。

○こどもマルシェ実行委員会

当日のこのボランティアと書かせていただいたところに関しましては、当日のボランティアさんは本当にボランティアで、自転車の整備をしてくださったり、安全安心を守っていただいたり、当日の運営は無料で来てくださるのですが、やはりこの子どもたちを支えたりというところに、今回も専門的な人が手伝ってくださったりがあったのですが、この先継続していくには、それなりの謝金をお支払いした方がもっとよりリアルに深まっていくと感じました。

私たちにとってやはり専門性、その子どもの心を動かすというところには、よりリアリティだったり、この中の言葉では現体験という言葉でそれを書かせていただいたのですが、そういうものを追求していきたい、そこにお金を使っていきたいという思いもあり、そちらを計上させていただいております。

○山田委員長

では続いて他の方質問がありましたらお願いします。

お願いします。

○坂田副委員長

発表ありがとうございました。

今、子どもの体験格差というのが日本社会の中で大きく取り沙汰されている中で、このような、茅ヶ崎の中で、現体験という言葉を使っておられますが、体験格差を解消できるような取り組みということで非常に楽しみにしているイベントでございます。

今回、支出を見ますと、デザインやウェブページの方に大きなお金をかけています。

こちらの方は例えば作っただけではなく、それをどう運用していくかというところが、とても大事になっていくと思うのですが、その運用についてはどのように考えておられるのかなということと、それからもう一つ、2年間で組織の基盤を構築したいというお話がありました。

企業協賛ですとかも考えていると伺いましたけれども、当てがあるのかどうか伺ってもよろしいでしょうか。

○こどもマルシェ実行委員会

ウェブの運用については委託ということでボンドさんの方をお願いをしようかなと思っているところではございます。

やはり僕らがやりたいのは、ただ単純にウェブでページを作って、ということだけをやりたいわけではなくて、やはり今後の発展性ですとか、先ほど坂田さんからおっしゃっていただきましたけど、子どもの体験格差ということがないように、できる限り広く周知を徹底させていきたいなと思っているところでございます。

あとは、そのウェブページは、今後の寄付ですとか、企業協賛ブースですとか、そういうところにもつなげていきたいと思っていますので、しっかりとしたものを作って、企業ですとかにブースを出展していただく、もしくは御協賛いただく、そういった中で継続して、このイベントができるようにしていきたいなと考えております。

お答えになっておりますでしょうか。

○坂田副委員長

企業協賛の当てというのはいかがでしょうか。

○こどもマルシェ実行委員会

すみません。今のところ当てがないので、これから頑張ってきたと思っています。

○坂田副委員長

今回はこの補助金を使ってということですがけれども、やはり持続可能性というところを考えると、茅ヶ崎全体で応援する仕組みを作っていきたいと思ってるのかなと思います。

ぜひ様々な方々に声かけて、クラウドファンディングもそうですけれど、100人に声をかけても10人しか集まらないのが現状ですよ。

ですので、多くの方々に、皆さん自身が声をかけていくということがすごく必要になるかなと思いますのでここは人的パワーを使っていくと良いかなと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。

続いていらっしゃいますでしょうか。

○山口委員

発表ありがとうございます。

昨年のイベントもかなり大盛況だったということなのですからけれども、それを踏まえて今回、イベントまでの準備期間、いろいろ細かく予定されていると思いますけれども、昨年はここが少しくまらなかったから、今年は準備期間で、こう変えてみようというような改善点がありましたら教えてください。

○こどもマルシェ実行委員会

企画書の中にも書かせていただいたのですがけれども、一番は、前回の主催者は私が一応保育士としていまして、我が子にこういう経験をさせたいという主婦が2名と3名で主にやっていたのですがけれども、書いたように74名の幼児から中学2年生までの子どもたちが集まりまして、そこでそれぞれの年齢の子たちへのそれぞれへのアプローチだったり、はじめましてで関係性がない子どもたちとの信頼関係の構築というところには、もう少し専門性であったりとか、あとは人数的なものももう少し必要だなと考えておりまして、人的環境というところを書かせていただいたのですがけれども、より子どもとか教育の専門分野の方や、もっと知識を持った方とともに進められたら、より子どもたちのやりたい、をリアルに形に変えてあげられるなど。

今回は結構、始めに集まって、子どもたちと繋がり合ったあと、御家庭に持ち帰って、その作品づくりに励んでいただく期間があったのですがけれども、そこでもう少しこちら側からのアプローチをたくさんしたり、ワークショップをしたりなどしてもう少し世界感を広げたり深めたりというところをもう少しできればいいなと思いました。

○山口委員

ありがとうございます。

今年も大盛況に、大成功に終わるように願っております。

○山田委員長

続いていかがでしょう。

○藤間委員

私は今児童館で働いているのですけれども、秋に、子どもが店長になってお店をやるというイベントを、児童館なのでこんなにおしゃれではないし華やかでもないのですけれども、やらせていただいた中で、宣伝みたいなことを、チラシづくりとポスターづくりを子どもたちに任せたのですね。

すごく子どもって、保育士さんだからわかると思うのですけれども、天才的で、本当に大人じゃこの色使いはないよねみたいなのが、すごく素敵なものが作られて、今回チラシ代とかポスターで結構高額になっているのですけれども、子どもたちを成長させるという意味で、宣伝広告、ポスター作りについて勉強したりとか、目を引くのにはこういう色使いがいいんだよとかいうのも勉強するようなワークショップがあると、さらに子どもたちの可能性が広がるような気がするのですよ。

児童館としてもすごい課題になって、少しこっちに寄っちゃっているねとかいうこともあったので、そういう何かのワークショップがあったらいいなと思って少し言わせていただきました。

○こどもマルシェ実行委員会

その点に関しまして、実は今までもこどもマルシェ、今回が大きくやったのは初めてなののですけれども、それまでに個人宅の横などで4回ほどやってみまして、その会に関しましては子どもたち自身が広告を作り、広げてという感じだったのですけれども、やはり子どもたち自身の手では広がりも限界もありますし、おっしゃられるように子どもたち自身が作るものというのも、ものすごく素敵なののですけれども、もちろんそういうところも今回も大事にはしていたのですけれども、よりリアリティと、本物を感じるというところで、子どもたちの思いをこのようにデザインをプロにお願いをあえてして、ここにお金をかけてやりました。

子どもたちがこのマップを手にしたときの顔が1枚1枚写真を実は撮ったのですけれども、本当に自分たちのお店がこのプロの手によって、大人の作られる広告と、同じ大人と肩を並べる、この自分たちのお店が出るいうところに本当にそのリアリティがあるので自分たちでは作れない。

そこにやはり憧れだったり、大人の背中を見るというところが含まれていると思います。

それがやはり子どもの心を動かすことにもなりますし、私も保育園などでは自分たちで作ったポスターで、とてもそれがかわいくやっていますけれども、この件に関しましては、リアリティを求める。そして大人と肩を並べる共主体というところに重きに置いていましたので、ここにあえてお金をかけております。

そしてこの子どもたちも何部かずつ今も持っているのですけれども、きっとここに載っている子どもたちは、人生のこれからの、このものが糧になると思いますし、宝物になっていると私は信じております。

○山田委員長

時間となりましたので質疑応答は以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

では続きまして、湘南1 L e b e nさん、準備の方よろしく願いいたします。
よろしいでしょうか。

<市川委員入室>

それではよろしく願いいたします。

○湘南1 L e b e n

(湘南1 L e b e n発表)

○事務局

それでは質疑応答に移りたいと思います。

山田委員長よろしく願いします。

○山田委員長

質問ありましたらお尋ねください。

いかがでしょうか。

○坂田副委員長

発表ありがとうございました。

実は私は平塚市から来ているのですけれども、この4月から平塚市は市民提案型協働事業で、犬を支援する団体とそれから猫を支援する団体が一緒になって行政と協働事業に取り組む計画ができています。

その大きな目的は、高齢者の方が孤立して、動物を飼っていると、自分が亡き後どうしていくかが全然計画がされてないとか、或いは多頭飼い、先ほどの写真にもあったように、結果多くの住民に対しての被害が及んでいるということで、この取り組みをより多くの方々にやはり知っていただくということ、普及活動が、大きなメインの活動になっているのですが、それと似たような形の取り組みだなと感じています。

特にコロナ禍後が、多分顕著に現れているのではないかなと考えております。

講演会ですが、この企画書の中では1回とあるのですが先ほどのプレゼンでは2回ということですが、どういったところでおやりになるのかをまずお伺いしたいのと、それからもう一つ、団体がこれからの展望の中に継続的な活動をしていくために、非営利法人化に向けてというところが書かれております。

そちらについて、今どんなふうに考えているか伺ってもよろしいでしょうか。

○湘南 1 L e b e n

講演会は2回を予定しております。

どちらも有名なタレントさんに、前に市役所でもお世話になった方、女優さんや、本当にペット防災に詳しい方を予定しております。

場所は予定していたところが、茅ヶ崎のゴルフ場のカフェが今休業中になっていたのですね。

そこは犬も入れるから、ぜひとも思ったのですけれども少し厳しいようですので、コミュニティホールとか、市の庁舎とかを考えております。

その点は、私たちも金額とかも確認は取ってないので、どうするか、また担当の方とかとお話して、犬が入るかどうかも確認をしたいと思っております。

法人化は一昨年に補助を受けた時にも、課題ですねという御指摘をいただいています。

提出書類はほぼほぼ完成しているのですが、やはり役員会を持ったりであるとか、代表がじっくり内容を精査したりする時間がなかなか取れず、少し延期しているところではあります。

スタッフの力量であるとか、書類面に関しては、かなり進んではおるところです。

ただ、NPO法人がいいのか、他の動物関係の法人だとまた違う種類もあったり

するので、何が今後の私達の活動に一番合っているのか、持続していきやすいのかも含めて検討していきたいと思っています。

○坂田副委員長

法人化をするとすると、やはり事務方の体制が一番重要になってくると思います。

皆さんのような活動ですと、現場の活動が優先されるためどうしても事務方の手当が不十分となるのかなと想像ができますが、今後の展開とすると、やはり多くの方の賛同、寄付が得られるような活動にしていく形がいいのではないかと思います。その辺についてはサポートセンターに相談しながら進めていただけたらと思います。

○湘南 1 L e b e n

ありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございます。

続いて、いかがでしょうか。

少し今のところに関係する質問です。説明の中にもありました通り、命をサポートしていらっしゃるから、24時間、365日の体制で命と向き合っているというところが大変よくわかりました。

そこがあるがゆえに、活動そのものの情報蓄積とか振り返りというものも、同時に難しさを感じていらっしゃるかと、一昨年の時も今回の時もお話がありました。

そこに向けて今こんな工夫していますとか、それからスタッフ間での情報の共有のために、このような取り組みやっていますというところがもしあればお聞かせいただけますでしょうか。

○湘南 1 L e b e n

些末な連絡の取り合いなどはSNS等でやりとりしているのですが、外向けの発信としてインスタグラムとか、ホームページの中で連載形式の活動報告を置いていますので、昨年秋にクラウドファンディングの会社に御協力いただいてやったところに関しては、週1くらいで今もその後の活動ということで挙げておったりはします。

新しく入ったボランティアさんがそれをずっと遡って読んで、会の歴史であるとか、考え方を勉強してもらったりもしているので。

ペーパーだけではない、様々な情報の振り方みたいなのは今後も検討していきたい

いと思います。

○山田委員長

今現時点では、会の中のメンバーの皆さんにとってはそのように、情報が伝わるようになさっているということですね。

○湘南1 L e b e n

グループLINEがあるので、そこで大事なこととか、新しいスタッフ、結構入れ替わりがありますので、グループLINEのノートとかに貼ったりとか、共有は必ずしております。

○山田委員長

ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

○山口委員

どうも発表ありがとうございました。

我が家に犬がやってきたという番組が好きで良く見ているのですが、こういう活動をしている団体はたくさんあると思うのですが、そういう団体さんと一緒にやることで、もう少し行政に訴えかけていくとか、個別にやっているとなかなか力が大きくなって、根本的な問題の解決になかなか繋がらないのではないかなという気もするのですけれども、そういうところについて、今後の発展の中で何か考えられていることがありましたら教えてください。

○湘南1 L e b e n

実は全国の様々な団体さんたちと繋がりががあります。

神奈川は神奈川で、協力団体が、ほぼほぼ全部の犬に関しては、団体たちと一緒に、この間も3月先週、仲間たちと一緒に大きな25団体と譲渡会をやっております。

去年も場所が藤沢にはなるのですけれども、犬が入れるようなホテルがあったので、うちだけじゃなく、様々な団体さんたちに声をかけて、一緒に共同でやっております。

○山口委員

そういった団体さんと情報交換することで、もう少し自立性が高まるとか、そういったところのアイデアみたいなものはあるのでしょうか。

○湘南1 L e b e n

正直、今は神奈川は殺処分ゼロとされているのですがけれども、全国でも大体毎日毎日殺処分の期限がついた子が出ているのですね。様々な団体たちに振り分けていますけれども、うちも実際今30頭近くいるのですね。

本当に手に負えない状態で、今ボランティアさんたちがいるのですがけれども、この団体も同じようなところですよ。

行政に訴えかけてもなかなか、自治体によって違う。

殺処分が1週間というところもあります。

期限が3日というところもありますし、開示しないところもあるのですよ。もう殺してしまえという県もあります。

ですので、私たちは本当に、何とか行政に訴えかけていますけれども、何もできないのが現状です。

私も初めて練習でやっているときに逃がしてしまって、探せないということもあります。

ですので、外へ出して逃がしてしまわないやり方とか、あとは、飼うのをギブアップして保健所に持ち込む人を減らすとか、地方の山の野犬をどういうふうにと一緒に暮らせるように変えていくとか、今やっている小さい事のコツコツがそういう最終的な目的に繋がっていると思ってやっています。

○山口委員

ありがとうございます。

今回がまた団体の継続に繋がるようになればいいと思っております。

○湘南1 L e b e n

ありがとうございます。

○山田委員長

それでは時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○事務局

はい。

湘南1 L e b e nさんありがとうございました。

では続きまして、にじカフェさん、準備の方よろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。

それではよろしくお願いいたします。

○にじカフェ

(にじカフェ発表)

○事務局

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問がありましたらお尋ねください。

いかがでしょうか。

今回のプランについてお聞かせください。

企画が重なるにつれて、今回特にバージョンアップして、この辺を充実して企画をしていますと言ったところを、今一度アピールをお願いします。

○にじカフェ

バージョンアップという点では、終活の実際に書き記すワークショップを組み入れたところでは、

全般的な話を2時間くらいでしていただいたのですけれども、内容はとても興味深く質問も多岐にわたったのですが、やはり実際に親の介護をしていて、その相続をどうしますかみたいなことがとても多くて、どちらかという自分ごとで自分のことを書くみたいな思考にまでは至らなかったのが反省点です。

実際にそのエンディングノートをいただいたのですけれども、書きやすいような内容でいっぱい項目はあるのですが、なかなか、私も書いてみましたけれども、一人でやるがゆえに、内容がまとまらないということもありまして、今回、先生をお呼びして、誘導していただきながら、思い出しながら、自分の家のこととか、自分の家族のこととか思いながら書くというワークショップをされている先生だったので、そこがバージョンアップです。

もう一つ、414（よいし）に関しましては、本来は、もう今年はこの補助金をお願いしないで、自分たちでやってしまうみたいな話も最初あったのですけれども、やはり先生たちの、運営を見ていると、とてもとても、ということを感じまして、去年は私たちも参加するというスタンスでおりましたので、今回はもう学ばせていただき、来年からは継続して、自分たちでも開催できるような意気込みで、私

たちがバージョンアップするという感じで今回は企画をしています。

○山田委員長

ありがとうございます。

そういう意味で専門性が必要で、特別な担当者の方の謝金が必要だという御提案ですね。大変よくわかりました。

他に御質問いかがでしょうか。

○山口委員

発表ありがとうございました。

費用の面で2点ほどお聞きしたいのですけれども、ホームページの修正を、ジェイセンスさんというところに発注を考えられているということで、見積書もついていたのですけれども、ジェイセンスさんをホームページ等で調べると、ホームページ関係の業務をやられているような感じが見られなくて、お願いするのはいいとしても、少し専門的にいいものができるようなところなのかどうかというところがわからなかったのですが、その辺の心配はないのでしょうか。

あと、これは簡単な質問なのですが、見積書に消費税の項目はなかったのですけれども、税込みでしょうか。

○にじカフェ

はい税込みです。

そしてこちらの方は、様々な経歴がある方で、もともと企業に携わっていたりして、今やっていることは、言い方が悪いと、何でも屋さんみたいなことをされているのですけれども、そちらの方も専門性はあって、裏メニューみたいな形である方です。

○山口委員

わかりました。

○山田委員長

続いて質問いかがでしょう。

○坂田副委員長

発表ありがとうございます。

高齢化ということで、皆さんの活動が非常に大切な活動ではないかなと思っています。

例えば地域の中では包括支援センターをはじめとして様々なところで、終活ですとか、エンディングノートの書き方などをやっていると思うのですが、そういった行政でやられている活動と、皆さんの活動がうまくリンクすると、重層的なまちになっていくと思うのですが、そちらについてはどのようなお考えをお持ちでいらっしゃるか教えていただけますでしょうか。

○にじカフェ

本来は多分私たちがやらなくてもいい事業なのだと思うのですが、包括さんでももちろんやっているのですが、それを調べてもなかなか出てこないのが現状なのですね。

私も市内の包括さん全箇所回って御挨拶させていただいたりするのですが、その時に今度こういうのがあるのよと言ってチラシを渡されるみたいな、その時にエンディングノートの同じような事業があるということを知ったのですが、実際検索で出てこない。

あとは、包括は場所がこう区切られているではないですか。この地域はこの包括、この地域はこの包括。

でも茅ヶ崎市民としては様々なところに行くし、縄張りみたいのは全く関係ないのでですね。

でも、その地域はここだから、みたいに誘導されてしまうことも多く、私たちはそういうことは全く関係ないので、にじカフェにどの地域の人でも来て、学んで欲しいという気持ちです。

実際に今認知症のことも活動でやっているの、キャラバンメイトという活動もしているので、その縦割りがすごく行政にはあるなというのをすごく感じていて、私たちは、そこは関係なく、横の繋がりで関わったらいいなと思っています。

実際に、にじカフェがある場所をつむぎさんで、私が住んでいるところはさざなみさんで両方ともできる限り関わりをしたいということで、伺わせていただいたりしています。

ですので行政のところももちろんあり、にじカフェみたいなのところもあり、それが将来的には茅ヶ崎市内での皆さんが関わられるような場所になったらいいなと思っています。

○坂田副委員長

行政の役割と団体ができることが重なりあうと良いですが、市民ならではの活動ということで非常に重要な活動をされていると思うので、ぜひこれを仕組みにして横展開していただけるといいなと、期待をしております。

○山田委員長

ありがとうございます。

他に御質問いかがですか。

質問やコメント等あればお願いいたします。

○高山委員

事前質問にも書かせていただいたのですが、にじカフェが、ずっと仲間が継続して、コミュニケーションを取っていけるということになると、途中でそこが店じまいになってしまうと、その拠点がなくなってしまうと、やはりいかに続けていくかということがすごく大事だろうなと。

エンディングノートなどの、皆さんに様々なノウハウを、そこに来て勉強していただくという事業が少しでも広がっていかないと、なかなか事前質問の中では、努力していただいているがなかなか難しいですと書かれていた通りで、現実はそうではないかなと。

そうすると、いかに仲間を増やして、皆さんが一緒になって、その事業が成長していけるように、というようなところを、皆さんに知ってもらうのがまず一歩なのかなとは思いますが、何か仲間づくりというのに、皆さん、我々にも声をかけるというか、行政も含めて、こういうところに力を貸して欲しい、そういうところのPRされる場所があったら、この場を使ってぜひお話いただけたらと思います。

○にじカフェ

ありがとうございます。

あの場をなくすことはもう絶対に駄目だと思っているので、そこは踏ん張って絶対にやめるつもりはないのですが、事前質問の中でもお答えしましたが、やはり資金がとても大変でして、私たちはもうすべてボランティアで活動しています。

今まで手伝ってくださった方々もいるのですけれども、実際にやはり心は豊かになるけれども、結局継続するにはある程度生活できるようなお金とか、あった方がいいと思うのですけれども、実際に謝礼を出すこともできないので、にじカフェのご飯、一食無料でどうぞみたいな感じでお手伝いしていただいているのが現状なのです。

ですので、そういう方たちも続かないで、結構出入りが激しくなっていて、メインのメンバーたちだけで頑張っているというのが現状です。

実際にこの左側が活動資金を集められるような仕組みになっているのですけれども、こんなこと言っているのか、ご飯を食べに来てください。

ただ、そこがまた難しいところで、私たちのこだわりとしては、いらした方が、誰とも話さないで帰るという注文だけで帰るという場所にはしたくなくて、その方

と一言でも二言でも必ずしゃべってお帰りいただきたいという、そのコミュニティの場にしたいのですね。

ですので、あまりいっぱいお客様がいらっしゃると、回らないというジレンマがありまして、でもまずは知っていただくことが必要かなと思っていて。

でも最近はその中でも、去年こちらに出させていただいたきっかけで、あとはサポセンさんとも繋がれたおかげで、にじカフェさん、にじカフェさんというのをあちこちで聞くようになったので、それはありがたいなと思っています。

あとは自分たちも努力をして、もう少し資金を得られるような方法を構築していかなくちゃいけないなと思っていて、今年の道の駅には出店するようにしました。

そういうところからも知っていただく努力をしていく必要があるかなと感じています。

○高山委員

ありがとうございました。

道の駅は、報道も様々なところがいっぱい来て、おそらくものすごく渋滞するくらい人が集まるでしょうから、是非ともそういう場を利用して上手にPRしていただけるといいなと思います。

○にじカフェ

ありがとうございました。

頑張ります。

○山田委員長

それでは時間となったようですので質疑応答は以上です。

どうもありがとうございました。

○事務局

にじカフェさんありがとうございました。

それでは席にお戻りください。

これでステップアップの部3団体のプレゼンが終わりましたので、ここでもう一度休憩を取りたいと思います。

あちらの時計で3時35分から再開いたしますので、それまでにはお席にお戻りください。

よろしくお願いいたします。

(休憩)

○事務局

それでは皆さま、団体の皆さまもお揃いですので、再開させていただきます。

それではこれより、総括質疑に移ります。

総括質疑とは、市民活動のさらなる発展や、市民活動げんき基金補助制度の向上などを目的に、委員の皆さま及び団体、傍聴の方々から、日頃の活動の中で感じられていることについて、忌憚のない御意見を述べていただくとともに、会場内で意見交換をしていただくものです。

Z o o mで御覧になられている皆さまも、Q & A機能で御質問をいただければ、職員が代読いたします。

質問が多い場合などは、時間の都合上、全ての御質問を御紹介できないこともありますので予め御承知おきください。

なお、こどもマルシェ実行委員会に関連する質疑については、市川委員は発言等、関与できませんのでこちらも合わせて御承知おきください。

総括質疑の進行は、山田委員長と交代させていただきます。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

総括質疑の前に皆さま、お疲れ様でした。

発表を聞かせていただいて、面白いというと不謹慎かもしれないのですが、大変勉強になりました。

私自身も大学での授業とか、それから研究により市民活動について見聞する機会があります。それから他市でも、こうした審査に関わる機会が多いです。そういう意味で、いろいろと毎回プレゼンテーションを聞かせていただくと、茅ヶ崎の市民活動の提案というのは大変元気がわくというか、ワクワクするというか、そういうところが非常に強いという印象があります。今回も、面白い発表をたくさん聞かせていただいた感じがいたしました。

こういう機会ですし、相互に学びをする場でもありますので、これからの時間を使いまして他の団体の感想ですとか、こんなところが勉強になりましたとか面白かったですとか、それから御自身の発表の中で、少し緊張しちゃったので、言えないところがあったから、こういうところも合わせて報告しておきたかったのですというところなどを、順番もそれから内容もバラバラで構いませんので、思いつくままに、皆さんと情報共有していきたいと思っています。

この時間は、そういう狙いで進めたいと思います。

それでは、まず発表団体の皆さまから感想ですとか、それから、こういうところ

が大変面白かったですとか、参考になりました勉強になりました、などがあればお聞かせいただきたいと思いますけれども、どなたか口火を切っていただくことはできますか。

先ほども、様々なところで皆さんそれぞれ立ち話をなさったり、打ち合わせをなさったりしているところがあって、交流が起こっているのは、素敵だなと思っているのですけれども、どうでしょう。

こんなことを話しましたでも結構ですし、こんなところが勉強になりましたということがあれば、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

○湘南 1 L e b e n

本当に、それぞれの団体がいろいろ面白いことを考えて、発表されているのだなと思いました。

コンポストで犬の排せつ物が何とかならないかなとか。普通のごみ袋を買って出しているのですね。いつも私たちは毎回一番大きい袋を幾つも幾つも台車で運んでいるので減らしたいとか、イベントや事務で空き家を活用できないかとか、すごく参考になりました。

私たちの発表も何かに使っていただけたらいいなと思いました。

普段お金をかけないことばかり考えているので、プロにホームページを頼むとかっこ良くなるんだとか、できそうな人いませんかと無料の人ばかり探していたので、その辺も様々な考え方があるのだなと思いました。

○山田委員長

御指名もありましたので、コンポストは犬の排せつ物はコンポストで処理ができるのでしょうか。

○C 3 大作戦

やってみたことがないのでわからないという答えなのですからけれども、ただ面白そうですので、試してみる価値はあるのではないかと思います。

○山田委員長

それから空き家活用についてTAKURAMI不動産の皆さんにも、今、御指摘ありましたがどうでしょうか。

○TAKURAMI 不動産

発表が終わった後とか、様々な皆さんと話していて、様々なコラボができそう、みたいなのがあったので、ぜひ何かできそうなことがあったら、こちらこそよろし

くお願いしています。

立ち話とかいろいろしていたときに、やはり何か皆さん様々な思いのある活動が
まちにたくさん広がっていったらすごく素敵なまちだとは感じてきたので、今日一
緒に発表したのも、すごく素敵な御縁だなと思うので、今日のこの会をきっかけ
に、また何か皆さんと一緒にしていけたら楽しいなと思っています。

○山田委員長

ありがとうございます。

続いていかがでしょうか。

○茅ヶ崎CAD部

先ほどの休憩の時間で立ち話ということで、お話させていただいたC3大作戦さ
んは、仕事でCADを使っているという話をいただきまして、CADをやっている
ユーザーがいるのだなと思いました。

ぜひ、茅ヶ崎CAD部に遊びに来てください。

お隣のTAKURAMI不動産さんはもともと知り合いなのですけれど、3Dプ
リンター、これを見て関心を持っていたいたので、ぜひ茅ヶ崎CAD部に遊びに
来てください。

lebenの方も実は職場に3Dプリンターがたくさんあるということをお聞
かせいただいたので、ぜひ茅ヶ崎CADにも遊びに来ていただいて、私も少しプリ
ンターを見に行きたいかなと思っています。

冒頭に市長の方から茅ヶ崎市内で3Dプリンター製の車が開発される。その工場
があるということで、先ほどスマホで調べたら、萩園の方にあるということなの
で、どなたかもしお知り合いの方がいらっしゃったら、見学に行きたいと思ってお
ります。よろしくお願いします。

○山田委員長

ありがとうございます。

茅ヶ崎CAD部の御説明、企画内容によると、やはり、楽しいが未来づくりに繋
がっていくということでしたので、「遊びに来てください」は非常に良いキーワー
ドだと改めて聞かせていただきました。

ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

○C3大作戦

発表を聞いて興味というか、ちがさきこどもマルシェさんの写真がすごく楽しそ

うだなと思ったのですけれども、子どもたちがそういうことをやっていることを知るきっかけがあるのか、こういったところで、子どもたちが知っているのか、もしくは茅ヶ崎市内にはたくさんの小学校があるではないですか。

もしかしたらこの小学校ではたくさん参加するけど、別の小学校の子は知らないとか、そういうことはないのかなとか、少し思ったので質問させてください。

○こどもマルシェ実行委員会

御質問いただいてありがとうございます。

学校募集のチラシがありまして、そちらを子どもたち、参加するような子どもたちにたくさん配ったりとか、先ほど学童の話があったのですけれども、市内の学童のところに、子どもたちにぜひ配ってくださいとか、知り合いの小学校とか習い事の場所、子どもたちが茅ヶ崎市内でよく通うようなスポーツクラブさんだったりとか、様々なところに置いていただいたり、まちの子どもたちが目にするような場所にたくさん置いていただきました。

あとは、保育園さんだったり、南北と偏らないように、北に住んでいる知り合いには北に配ってもらって、南の人には南に配ってもらってというようにはしていたのですけれども、まだまだこんなことやっていたんだとか、来場された方でこんなことやっていたら次は自分たちがやりたいという通りすがりの方だったりとかがいらっしゃるので、もっともっといっぱい広がっていけばいいなと思っています。

そしてこの繋がりというところなのですけれど、私たちも今後を考えたときに、様々な茅ヶ崎市内子ども向けの、こういう市民団体もたくさんあるので、そういうところとたくさん繋がって、演劇されているところとか、映画を撮られているところとか、そういうところと繋がってもっと本当によりリアルなまちになったらいいなと思っているので、ぜひそういう繋がりがあればお声をかけていただきたいと感じました。

○山田委員長

ありがとうございました。

続いていかがでしょうか。

○こどもマルシェ実行委員会

今会員が言ったことと被るのですけれど、せっかくこうやって皆さんと繋がりができたというのもありますし、あと市長がいらっしゃったら直談判したいなと思っていたのですけれど、例えば映画を撮っている団体が茅ヶ崎にあるのですが、市と共催できるとすると、市役所の1階のふれあいプラザが使えるのですよね。

こども政策課さんなどと何か共催させてもらって、我々のイベントができればいい

いなというところもありますので、我々だけではなくて皆さんも行政と繋がっていただいて、行政の方と一步一步進めていく。

ここまでできるよね、ここは少し無理だよね、とかというのを探り合いながら、お互いがレベルアップできるといいなと思いました。

あとは他の団体さんのお話を聞かせていただきまして、僕らもそうなのですから、やはりボランティアの限界がある、疲弊していくところがある。

そこを打破できる、全然アイデアはないのですが、何か打破をしていきたいなというのを改めて感じました。

今、別の会員もボランティアリズムの限界ということは言っていますが、私どもも結構デザインですとか、会場費ですとか、高額という言葉も審査員の方からいただいたのですが、そういった本物にお金をかけるようなところを、今回も強めにプレゼンテーションをさせていただいたと思うのですが、

やはり市民活動が盛んな茅ヶ崎、すごく素晴らしいことで、みんながガッツでやっているみたいなのところもあるのですが、一方で持続可能性はどうかというところを考えたときに、結構皆さん、様々なものを犠牲にしながら、それでも思いだけで進んでいるというところが一面であると思っています。

私たち結構今回チャレンジングな提案をしているかなと思うのですが、この持続可能性ですとかそういったところを、みんなで盛り上げていきたいという意味でも、応募させていただいたというところがありますので、そういったことを御理解いただけると嬉しいなと思っていますし、横で協力しながらということも、これから茅ヶ崎全体で盛り上げていきたいという気持ちもありますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

○山田委員長

ありがとうございます。

せっかくだから、自治体とのコラボをしたいという御提案でした。例えばこの補助金に応募することで、こんなように過去には広がりましたよというエピソードなどがあれば事務局から御紹介いただけますでしょうか。

○事務局

皆さん本日はお疲れ様でした。

市民自治推進課長三浦です。

寒い中でしたけれども、熱い発表をどうもありがとうございます。

行政職員と一生懸命活動していただいている皆さんとの間が縮まらないということが課題になっていて、何か一歩進められることがないかなということで検討をしております。

サポートセンターの皆さんにも御協力いただきながらではあるのですが、きっかけが掴めずにいるが現状です。

令和6年度は過去に本補助金を使っていた団体の皆さんにヒアリングをさせていただく機会を作りまして、何をしていくと、皆さんがより繋がるのか、皆さんと行政がより繋がれるのかということを、研究をさせていただく年にしました。

議員の方々からも、市民活動団体と行政との繋がりというのは非常に興味を持っていただけた年でしたので、来年は職員研修の中で、団体の皆さんと行政の職員と一緒に語り合うような場を作っていこうということで、計画をしております。

そういう機会をとらえて、さらに近づいていければと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○山田委員長

来年というのは、令和7年4月以降ということでしょうか。

○事務局

はい。令和7年度です。

○山口委員

前から思っているのは、検索システムみたいのはあるのでしょうか。

検索すると、茅ヶ崎市の団体がヒットするような。

マッチングアプリみたいなもので、団体が何をしているかを最初に申請してもらって、今AIも進んでいるから、パッと検索かけて、ここの団体とマッチングしそうだという、パーセントのようなものが出てくるとか。

そういうものがあれば、この団体に連絡してみようとかできそうな気もするのですけれどいかがでしょうか。

○ちがさき市民活動サポートセンター

サポートセンターの中野と申します。

マッチングアプリのようなものはないのですが、サポートセンターのホームページ上で、登録していただいた団体については、団体情報というものをすべて検索できるよう掲載させていただいています。

ですので、キーワード検索をしていただくと、該当する、その文字が埋め込んである団体は見るができる状況ですので、それで連絡を取っていただくことは可能かなと思います。

ただ、私がこれまで団体の皆さんを見てると、やはりこういった場、直接出会う場で、直接名刺交換をして、積極的に声掛けをして繋がっていくことがすごく大き

いなと思っていますので、本当に様々なイベントとか、お互いに協力し合ってやってらっしゃる団体は本当にいっぱいあるので、そういった一つ一つの繋がりから、どんどん大きく広がっていっているなと感じています。

○山田委員長

ありがとうございます。

今のやりとりをお聞きになって何か感想があればまた他のテーマでもいいのですが、けれどもいかがでしょうか。

○にじカフェ

今日はありがとうございました。

団体の皆さんの発表もとても興味があって、すごい緊張しいなのですが、皆さんの発表を聞いているときは集中して聞くことができ、とてもいいなって思っていました。

にじカフェはチラシを置く場所があります。ですので、よかったら皆さん、チラシだけでもお持ちいただけたら、置いておきますし、そこで顔が繋がると私も説明ができて、とにかく繋ぐ場のハブとして存在したいのですね。

ですので、よかったら皆さん遊びにいらしてください。

○山田委員長

ありがとうございます。

続いて、1 L e b e n さんお願いします。

○湘南 1 L e b e n

市民自治推進課の方々に希望なのですが、以前、春の市民まつり、秋のまつり、なんでも夜市など結構いっぱいありましたよね。

そういったイベントがなくなってしまって、私たちも実はそういったところで、資金の方も、結構売り上げもあったのですね。今そういうことがなくなったので、そういったのがあればもっともっと私たちとか市民活動団体が増えるのではないかと、知っていただくチャンスがあるのではないかなと思うのですね。増やしてもらうことできないでしょうか。

○事務局

御質問ありがとうございます。

市民まつりをやめた経緯といたしましては、市民の皆さまが市役所前広場などで、昨日も防災のイベント等があったのですが、皆さんの繋がりの中で、市

民の皆さま同士が様々なイベントをできるようになったので、行政の役割は一旦終えたということで、市民まつりは終了したということです。

今、市役所前広場はまだトライアルサウンディング中ということで、使っていただくことができ、何か思いがある方は、その企画を市の方に届けていただくと、場を借りることができるという状況になっています。

今日の繋がりの中でもよろしいですし、声を上げて横展開をしていただく中で、皆さんで企画していただいて、市を盛り立てていただければと思います。

御要望自体は市の中でも共有させていただいて伝えていきますが、今の段階として、一旦行政としてはそんな整理をしているということはお伝えさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

○山田委員長

ありがとうございます。

もしかすると、こういう話し合いの場の中で、複数の団体が協力してそういうイベントを立ち上げようという声が上がってくるかもしれないですね。

それも少し期待しつつ、可能性があるのかなとも思いました。

終了時刻がそろそろ迫って参りましたので、皆さんからの御発言は以上とさせていただきます、このまま振り返りとお礼の挨拶を最後に述べたいと思います。

今の御発言にも様々なありました通り、今日の参加団体の皆さんが、プラットフォーム型といいますか、水平的な広がりを持っている団体と、それからテーマ型のよう、ある特定の項目に基づいて、そこを突き詰めていきたいという、それぞれ角度の異なる提案があったと感じています。そういう意味では、プラットフォーム型の展開の上に、さらにテーマが立ち上がってくるような、そういうコラボの形態もイメージできるところは、とても興味深いですし、むしろそういうところに、横の繋がりや話の面白さのようなものがあつたと感じています。

ただ、今も御指摘がありました通り、やはりガッツだけではいけないということも、その通りですし、様々な限界があるというお話がありました。これは私たちの委員会も、茅ヶ崎市の協働や市民活動との多様なコラボの可能性を検討するということも含めて伺って、大変大切な悩みであるということと、重要な解決課題でもあるという認識をさせていただきました。

引き続き、協働の仕組みの中で議論できるようなところがありましたら委員会の中でも様々な議論をして参りたいと思います。

この場で語り合うことによって、本当に相手の真意や考えていることが伝わってくるという意味では、このような現場と、それから実際に市民の方と活動をとともにしている皆さんの企画は、本当に素晴らしいものになるだろうということがよくわ

かりました。

改めてお礼を申し上げたいと思います。

皆さんの企画については、この後もう一度委員会を開きまして、検討させていただき、その結果を市にお伝えしたいと思っております。

皆さん本日はプレゼンテーションどうもありがとうございました。

○事務局

山田委員長ありがとうございました。

以上をもちまして、令和7年度実施市民活動推進補助事業公開プレゼンテーションを閉会いたします。

令和7年度実施事業は、市民活動推進委員会による評価結果を受けて、最終的に市長が決定します。採択・不採択等の結果につきましては、事業提案団体の皆さまに3月下旬ごろ書面で御連絡するとともに、市ホームページ等でも一般に公表してまいります。

会場出口にて、市民活動げんき基金の募金箱を設置しております。会場にいらっしゃる皆さま、お帰りの際には、御協力をいただけると幸いです。

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。